

市民連合議員団

「住みたい 住み続けたいまち」 高槻の未来に向けて

岩 為 ※久 隆
中 俊 保 隆
浜 実 山 重
雄 ※は発言者

水害対策の河川整備 国や府の考えは

議員 河川整備の考え方が以前と変わったと思いますが、国や大阪府の考えを伺います。

市長 河川管理者である国や府では、治水と環境が両立した整備や取り組みを積極的に進めてきましたが、近年の集中豪雨などによる河川の氾濫の多発を受け、国は、災害リスクを軽減するための治水対策に力点を置いています。本市としては、災害に強く、強靱なま

ちづくりの実現に向け、引き続き、国や府に、治水対策を強力に進めるよう要望してまいります。

高槻インターチェンジを 生かした施設誘致を

議員 高槻インターチェンジを生かし、アドベンチャー施設やオートキャンプ場などの施設誘致を提案しますが、市の見解を伺います。

市長 他市にはない魅力をも有する本市には、ソフトとハードの両面において、あらゆるビジネスチャンスを生み出す高いポテンシャルが潜在しています。このポテンシャルを生かし、まちのにぎわいが新たな魅力を呼び込むといった好循環につながるよう、積極的にプロモーションを推進してまいります。

地区コミュニティの課題は

議員 地域の結束と防災

活動の要となる地区コミュニティの課題を伺います。

市長 課題は、校区や地区福祉委員会などの活動エリアが一致していないこと、ライフスタイルの変化に伴うコミュニティ活動への市民参加の減少傾向などです。また、これに起因する課題として、加入率の低下や役員の後継者問題などがあると認識しています。あらゆる世代に向けてコミュニティ活動の重要性の理解と協力を働き掛け、地域の実情に応じたコミュニティ活動の円滑な推進を支援してまいります。

新たな財源の創出を

議員 みらい創生を実現するためには、新たな財源の創出が重要な鍵になると



▲みらい創生の実現のため、新たな財源の確保に取り組む高槻市

考えますが、見解を伺います。

市長 新たな財源の創出は、「みらいのための経営革新」に向けた改革方針で歳入改革の一つとして位置付けています。まず、市税増加に向け、生産年齢人口の増加に努め、高槻ジャンクション周辺のまちづくりや、企業誘致の推進などにより、税収確保を図っています。また、新たな財源として、

売電や市有地の貸し付け、広告事業などにより、歳入の確保に努めてきました。さらに、安満遺跡公園などではネーミングライツ制度を導入しており、今後、従来の発想に捉われず、積極的に新たな財源の確保に取り組んでいきます。

富田地区のまちづくり 高架化の取り組みは

議員 JR摂津富田駅周辺の高架化の進捗が富田のまちづくりの全体を動かす重要なポイントと考えますが、市の見解を伺います。

市長 鉄道高架化勉強会においては、芥川の河川改修を含めた検討を開始しており、高架化事業との同時施工による整備効果などの検討を進めます。まずは、大阪府が事業主体となった高架化事業の実現が必要であり、その上で、地域住民や周辺企業にも情報共有を図るなど、様々な面から検討を深める必要があると考えています。